

半導体漫遊記

(49)

湯之上隆

「なぜエルピーダメ答した。」

モリは倒産したんですか？」

今年、実に多くの方からこの質問を受けた。エルピーダとは、

日本唯一の半導体メモリDRAM専業メーカーであり、1999年

12月にNECと日立の合併により設立された。そのエルピーダが

2012年2月27日に倒産したため、さまざまなかたから「どうして？」とその理由を聞かれたわけだ。

DRAMの製造方法を説明する余裕がない場合(ほとんどがそうだったが)には、次のように、たとえ話で回

出ない。

さらに、あるときから50円の値下げが重なった。それなのに相変わらず「こだわりの50円」を

および証券会社筋から診され、喜んで引き受けた。講演依頼を多数受けさせていたたくことにした。しかし、本書執筆に

は、シャープとパナソニックが2年連続で巨額赤字を計上し、会社存続の危機に直面している報道がなされた。このように業界が目まぐるしく動いたことに加えて、私自身が熱中症になり体調を大きく崩してしまったこと

湯之上隆著「電気・半導体大崩壊の教訓」

「売れるものをつくる」

コーヒーをつくるのに150円もかけていたからですよ」

コーヒー豆の品質にこだわり、焙煎方法にこだわり、抽出方法にこだわった結果、確かにおいしい缶コーヒー

ができたかもしれない。しかし、1本100円の缶コーヒーに対して原価150円もある。

関係する省庁、銀行

氏から、本の執筆を打

つくり続けていたらどうなるか？

過剰技術で過剰品質のDRAMをつくる高コスト体質の病気が、

エルピーダ設立以前からの課題だった。この012年4月に、前著

病気がいっこうに治らなかつた。それが倒産に至った直接的原因である。

『日本「半導体」敗戦』(光文社、2009年)の編集を行って

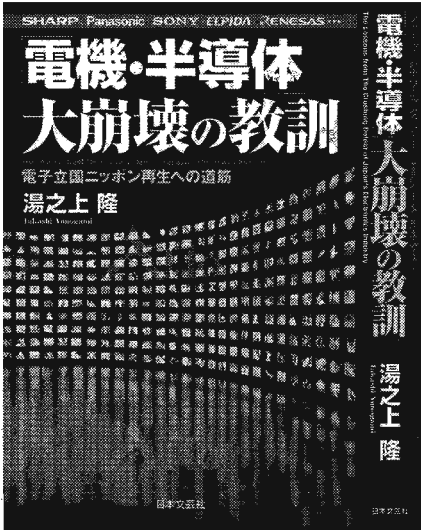
度の講演では、言いたいことの十分の一も話すことができなかつた。

そのような不完全燃焼を感じていた時、2012年4月に、前著

『日本「半導体」敗戦』(光文社、2009年)の編集を行って

いただいた山田順氏と

関係する省庁、銀行



ーダの次は、ルネサスの経営破綻がうわさされた。そのルネサスをめぐって、米投資ファンドのコールバーグ・クラビス・ロバーツ(KKR)がルネサスを買収に乗り出し、これを阻止するために、産業革新機構、トヨタ自動車やパナソニックなどの官民連合が共同出資する計画が急ぎよ浮上した。電機の方で

2冊目の著書「電気・半導体大崩壊の教訓」(日本文芸社)

本書の結論は、本コラム「半導体漫遊記」でも何度か述べてきたことだが、「つくったものを売る」のではなく「売れるものを(適正価格で)つくる」と、その一言に尽きる。本書が電子立国日本再生の一助になれば、これに勝る喜びはない。(半導体技術者・社会学者)